

## 第一章 序論

### 1-1 研究の背景

#### 1-1-1 景観形成への市民参画

「景観計画の主体は、一般的に言えば公共と民間の計画者であるが、より広くとらえれば、地域住民や自然もまた主体としてみる事ができる。」<sup>1)</sup>とあるように、景観を形成する主体には市民も含まれると言えよう。現在、まちづくりや景観づくりにおいて計画主体としての市民の重要性が議論されている。また、「1992年の都市計画法の改正において明確に住民のまちづくりへの参加が事業推進のために位置づけられ、また、2002年の改正においてさらに住民団体、NPOなど主導の街づくり事業の推進が認められている。」<sup>2)</sup>とあるように、まちづくりを考える際に市民が参画することの重要性は明確である。

市民参画の重要性は景観形成においても同様である。田村は景観形成における市民参画の重要性を「景観形成の基本となるのは、まずは、景観に関心をもつ市民の存在であり、その市民によって作られた市民政府の存在である。」<sup>3)</sup>と述べている。このような流れの中、平成16年6月公布された景観法<sup>4)</sup>の制定によって、良好な景観形成のために市民の責務が定められた。法制度によっても、景観形成への市民の参画の重要性が示されたと言える。

これらの背景から、市民が景観形成に参画することの重要性は明確であり、市民自身も街並みの景観に関わっていることを認識し、積極的に景観形成に関わっていく必要がある。

#### 1-1-2 市民の捉える街並みの景観

そもそも景観に商用的な価値が認められている観光地や、景観への関心がそもそも高い伝建地区などではない、日本のほとんどを占める「ふつうのまち」の景観形成に市民が積極的に参画するためには、「まず守りたい景観・風景・街並みを発見する必要がある」<sup>5)</sup>。一人ひとりが、別々に、あいまいに抱いていたまちの魅力やよさを確認することで、景観計画や景観協定等の策定といった景観形成に、市民が積極的に参画することが出来る。景観形成への市民の積極的な参画を促すためには、一度日常的な街並みの景観を捉えなおし、守りたい景観・風景・街並みを発見する必要があると言えよう。

人は街並みを体験することによって、その街並みの「シンボル」などの景観構成要素を目にし、景観を認識する。市民の景観構成要素の認識は、市民が街並みの景観を見る見方の一つであると考えられる。同様に、人は街並みを体験することによって、歴史も踏まえた全体的な街並みの特徴を色として捉え、景観を認識する。「彦根市鳥居本町の赤」といったような、街並みの色もまた、市民が街並みの景観を見る見方の一つであると考えられる。街並みの景観構成要素や街並みの色による景観認識は、街並みの景観を捉えるために重要な要因であると考えられる。

上記で述べた景観認識は人の働きかけによって景観を捉えるものである。人は景観の認識と同時に、街並みから景観イメージを享受している。街並みのイメージは「地域の『シンボル』や地域のアイデンティティをもとに形成されている」<sup>6)</sup>。つまり、歩くなどして街

並みの体験をすることによって、人はその街並みに対するイメージを抱き、街並みの雰囲気といったような、街並みの全体的な印象を得ることとなる。この街並みの印象は、市民が街並みの景観を見る見方の一つであり、景観イメージもまた街並みの景観を捉るために重要な要因であると考えられる。

以上より、景観認識と街並みの景観イメージを調査することにより、市民の捉える街並みの景観を明らかにすることが出来ると考えられる。

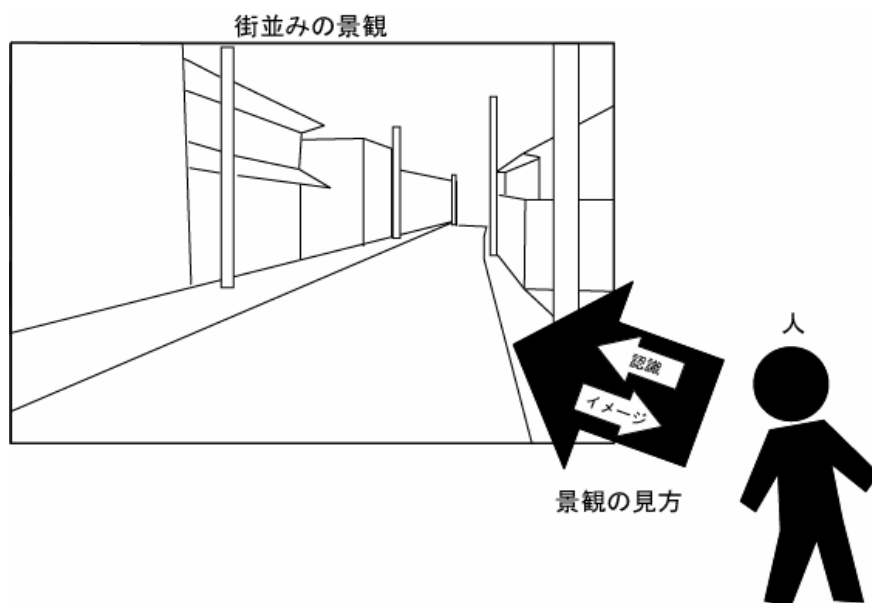


図 1-1 街並みの景観の捉え方

#### 1-1-2 景観における色彩

「景観の計画や設計において色彩をどう扱うかは、避けて通れない重要な問題である」<sup>7)</sup>。というように、街並みの景観は、建築物や工作物といった沿道の人工的要素によって強く規定されており、これらの構成物はそれぞれに色彩を持っている。つまり、色彩は街並みの景観の把握に大きな影響を与える要因の一つである。

景観を考える上で、色彩が注目される事は少なくない。「富山県景観づくり色彩ガイドライン」<sup>8)</sup>や「札幌の景観色 70 色」<sup>9)</sup>のように、実際に色彩を統制することによって、景観の調和を得る事例を挙げることができる。景観形成において色彩を用いることによって、建築物や工作物などといった沿道の人工的要素を排除する、もしくは形を変化させることなく景観整備を行うことが出来る。

このように、色彩を用いることで景観構成要素を排除することや形を変化することなく、容易に景観形成を行うことができる。つまり、色彩を用いることによって市民が景観形成に容易に参画することができると言える。

市民の景観形成への参画の手段としての色彩の効果を把握することが必要である。

#### 1-1-4 「色彩参画」について

本研究では、市民の景観形成への積極的な参画を促すために、日常の街並みの景観を捉えなおす手法として「色彩参画」を提案し、「色彩参画」を行うことによって、変化するであろう市民の抱く街並みの景観イメージに焦点を当てる。

「色彩参画」を行う前後の景観イメージに焦点を当て研究を行うことにより、「色彩参画」を行う前後での街並みのイメージを把握することができる。つまり、「色彩参画」を行う前後の景観イメージに変化が見られた場合、市民は日常の街並みの新たな一面を発見することができたと考えられる。そのため、「色彩参画」がどれほど景観イメージへ影響を与えるのかという点について追及を行う。

本研究における「色彩参画」とは、「決められた色を持つ任意の要素(もの)を市民が街並みに飾り付けることによって街路景観の形成に参画すること」とする。本研究で行った、「色彩参画」による景観形成実験は、決められた色の要素(もの)を街路に配置し、街路を飾り付けることにより行うこととした。また、配置する要素は特に指定をせず、家庭にある日用品等とした。飾りつけるものを任意としたことは、景観形成に参画する市民が自ら街並みに飾りつけるものを選ぶことによって、市民の自由な発想を引き出すことを狙いとしている。

「色彩参画」による景観形成実験は、上記のように街路に色を配置することで、「色彩参画」によって街路景観を形成し、街並みの景観を捉えなおすことを目的としている。

#### 1-1-5 既往研究

まちづくりや景観形成への市民の参画に焦点を当てた研究は数多くある。

まちづくりや景観形成への参画の手法に関する既往研究では、志村ら<sup>10)11)</sup>や澤田ら<sup>12)</sup>、田中ら<sup>2)</sup>の研究がある。志村や澤田らは、まちづくりや景観整備への市民参画の手法としてワークショップに注目し、研究を行っている。田中らの研究では、市民参画のために行われるワークショップを円滑に進めるための手法として、仮想現実空間に注目し、研究を行っている。これらの研究は、参加の手法としてのワークショップの効果や、ワークショップのプログラムを取り扱った研究である。

また、景観整備に市民が参画している事例を扱った既往研究は鳳<sup>13)</sup>や津田ら<sup>14)</sup>の研究がある。鳳の研究では事例を基に、景観形成基本計画への市民の参加の重要性、景観形勢基本計画の位置づけの明確化の必要性について述べられている。津田らの研究では積極的に景観形成が行われている事例を基に、市民の景観形成への参加意識に焦点を当てている。

絹原ら<sup>15)</sup>の研究では、対象地域の居住者と出身者の抱く景観イメージと景観認識を基に、居住者のみでなく出身者も景観へ参画することの必要性を論じている。

景観の把握に関しては、篠原<sup>16)</sup>が著書で景観の把握構造をモデル化して示している。篠原はシーン景観を中心とした景観把握モデルを作成し、景観を4つの景観要素と、7通りの空間的關係として捉えている。また、中村<sup>17)</sup>は著書で仮想行動の考え方において、景観を視覚以外の身体的感覚で捉えることの重要性について述べている。

景観における色彩に焦点を当てた既往研究では、米川ら<sup>18)</sup>や池田ら<sup>19)</sup>、窪谷ら<sup>20)</sup>などによって多くなされている。米川らの研究では建造物の外壁の色彩に注目し、街並みとの調和のとれる色彩に焦点を当てている。池田らの研究では景観評価に与える色彩の影響に焦点を当てている。窪谷らの研究ではいくつかの街並みの色彩を測色することにより、各街並みの地域性を表す色彩に焦点を当てている。このように、景観における色彩に焦点を当てた研究の多くの研究は色彩による空間の調和を求めるものや、色彩の見え方を求めるものなどである。

以上のように、景観形成への参画に焦点を当てた研究や、景観における色彩に焦点を当てた研究は数多くなされている。しかし、色彩を用いることによって、現実の街並みの景観形成への市民の参画を行い、市民の参画の手法としての色彩に焦点を当てた研究はなされていない。

以上より、景観形成への市民参画における色彩の役割を論じるために、本研究は「色彩参画」に焦点を当てる。

## 1-2 本研究の目的・意義

### 1-2-1 本研究の目的

本研究の目的は、「色彩参画」が街並みの景観イメージに与える影響を明らかにすることにより、景観形成における「色彩参画」の効果を明らかにすることである。

### 1-2-2 本研究の意義

本研究の意義は、景観形成における市民の「色彩参画」の効果を明らかにすることにより、「色彩参画」が市民の景観把握に与える影響について言及できる点、景観形成へ市民が参画する手段の一つとしての「色彩参画」の可能性を得ることができる点の2点である。

## 1-3 本研究の構成

本研究は7つの章によって構成されている。各章の内容を以下に示す。

### 第一章 序論

- 本研究の背景と目的・意義について述べる。

### 第二章 実験・調査概要

- 本研究で行った「色彩参画」による景観形成実験やアンケート調査方法について述べる。

### 第三章 分析方法

- 本研究で用いるクロス集計や因子分析、クラスター分析などの分析方法について述べる。

### 第四章 調査対象者の景観認識

- 本研究で行った街並みに関するアンケート調査の単純集計結果やクロス集計結果など、調査結果について述べる。

### 第五章 調査対象者の抱く街並みの景観イメージ構造

- 本研究で行った街路景観イメージに関するアンケート調査の単純集計を行い、プロフィール分析や因子分析による分析を行い、分析結果を述べる。

### 第六章 景観認識、実験への参画と景観イメージの関係

- 第四章や第五章で得た結果を基にサンプルの類型化、クロス集計を行い、景観認識や実験と景観イメージ構造の関係についての分析結果を述べる。

### 第七章 結論

- 本研究の結論として、「色彩参画」と景観認識の関係、景観認識と景観イメージの関係、「色彩参画」と景観イメージの関係のそれぞれについて述べた上で、「色彩参画」の効果及び位置付けについて述べる。

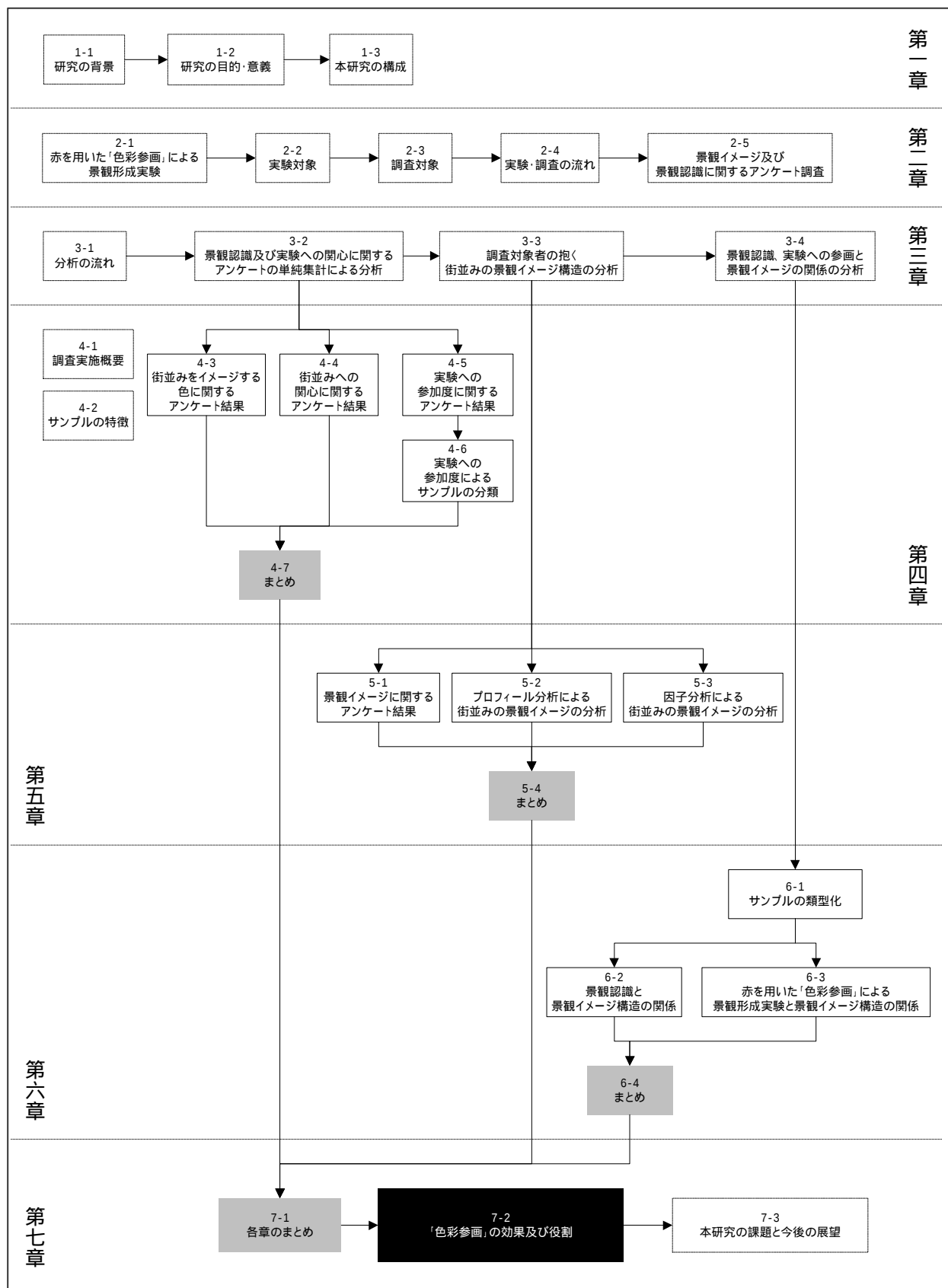


図 1-2 本研究の構成

## 脚注及び参考文献

- <sup>1)</sup> 景観デザイン研究会：景観用語事典，pp.80-81，彰国社(2005)
- <sup>2)</sup> 田中靖己・他，：ネットワーク型仮想現実強調空間を用いた参加型まちなみ景観デザインへの適用に関する研究，デザイン学研究，(50)，p.144(2003)
- <sup>3)</sup> 田村明：よりよき景観デザインへ向けての課題，総合論文誌，(3)，p.20，(2005)
- <sup>4)</sup> 岸田里佳子：景観法の活用について，建築雑誌，120(1527)，23-27(2005)
- <sup>5)</sup> 小泉秀樹：景観法とふつうのまち，建築雑誌，120(1527)，p.32(2005)
- <sup>6)</sup> 石井利勝，田中美子：地域イメージとまちづくり，p.16，技報堂出版株式会社(1996)
- <sup>7)</sup> 景観デザイン研究会：前掲書，pp.52-53，彰国社(2005)
- <sup>8)</sup> 富山県庁：景観づくり施策 | 富山県  
[http://www.pref.toyama.jp/cms\\_sec/1506/kj00001771-001-01.html](http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1506/kj00001771-001-01.html)，2005-5-20
- <sup>9)</sup> 札幌市市民まちづくり局都市計画部：札幌市—大規模建築物等景観形成指針—  
<http://www.city.sapporo.jp/keikaku/keikan/daikibo/sikisai.html>，2005-4-26
- <sup>10)</sup> 志村秀明・他，：街路空間デザインゲームとその組み立て～まちづくりにおける参加の手法に関する研究(8)～，日本建築学会大会学術講演梗概集，(1998)，13-14(1998)
- <sup>11)</sup> 志村秀明：まちづくりデザインゲームを利用した計画づくりとその展望，都市計画，52(2)，41-44(2003)
- <sup>12)</sup> 澤田幸枝：阿見町におけるけいかんづくりの事例研究—住民参加のワークショップのあり方について—，日本建築学会大会学術講演梗概集，(1996)，573-574(1996)
- <sup>13)</sup> 鳳千佳良：市民参加を取り入れた都市景観づくりに関する研究 神奈川県内の市町村をケースとして，日本建築学会学術講演概要集，(1998)，295-296(1998)
- <sup>14)</sup> 津田和則・他，：三重県大山田市における参加型景観づくりに関する研究 その1 アンケート調査から見る住民意識，日本建築学会学術講演概要集，(1996)，605-606(1996)
- <sup>15)</sup> 絹原一寛・他，：歴史的町並みを持つ地方都市に対する出身者の景観認識に関する研究—兵庫県出石町を事例として—，都市計画論文集(36)，739-744
- <sup>16)</sup> 篠原修：新体系土木工学 59 土木景観計画，技法堂出版株式会社(1996)
- <sup>17)</sup> 中村良夫：風景学・実践編，p.21，中央公論新社(2001)
- <sup>18)</sup> 米川光政，西浦定継：街路の視覚的、空間的要素からみるイメージ要因分析に関する研究，都市計画報告集，2(1)，8-14(2003)
- <sup>19)</sup> 池田圭介：構成要素別に見た街並みの色彩，日本色彩学会誌，(29)，100-101(2005)
- <sup>20)</sup> 窪谷直彦・他，：街路景観評価に与える色彩の影響 その1：街路景観模型による色彩配列効果の把握，日本建築学会大会学術講演梗概集，(1993)，1119-1120(1993)